



熱環境小委員会シンポジウム

建築伝熱計算プログラム/ ライブラリの公開をめぐって

〈資料集〉

2003年2月28日

日本建築学会環境工学委員会
熱環境小委員会 伝熱WG クラスライブラリSWG

熱環境小委員会シンポジウム

建築伝熱計算プログラム / ライブラリの公開をめぐる

主 催： 日本建築学会 環境工学委員会 熱環境小委員会

場 所： 日本建築学会会議室 (建築会館, 東京)

日 時： 2003年2月28日 (金) 13:00 ~ 18:00

司 会： 二宮秀與 (長岡造形大学)

主旨説明： 松本真一 (秋田県立大学)

プログラム：

13:00 ~ 13:10 開会あいさつ (主旨説明) 松本真一 (前出)

第1部 国内外におけるプログラム / ライブラリ公開の実情と課題

13:10 ~ 13:50 海外の実情 (1) - DOEなど北米を中心に 内海康雄 (宮城高専)

13:50 ~ 14:30 海外の実情 (2) - EUなど欧州を中心に 田辺新一 (早稲田大学)

14:30 ~ 14:40 (休憩)

14:40 ~ 15:20 国内におけるプログラム / ライブラリの開発事例と公開の必要性 (1)
荻島 理 (九州大学)

15:20 ~ 16:00 国内におけるプログラム / ライブラリの開発事例と公開の必要性 (2)
奥山博康 (清水建設)

16:00 ~ 16:10 (休憩)

第2部 クラスライブラリ SWGホームページによる公開

16:10 ~ 16:30 公開の目的と方法, 展望 松本真一 (前出)

16:30 ~ 16:50 公開の内容 - ホームページの紹介 西岡真稔 (大阪市立大学)

16:50 ~ 17:50 デモンストレーション - 利用と登録 二宮秀與 (前出)
芝池英樹 (京都工芸繊維大学)

17:50 ~ 18:00 閉会あいさつ (まとめ) 石野久彌 (東京都立大学)

はしがき (開催主旨)

クラスライブラリSWG主査

秋田県立大学 松本真一

今日、熱環境計画の実務の現場においても、教育・研究の現場においても、コンピュータ・プログラムが大いに利用されているが、その時々で目的に適ったプログラムがない場合、人はどのように対応しているのだろうか？

私をその立場において考えると、しかたなく既存のプログラムを改造して間に合わせる、100%の満足が得られないことを承知で海外のWebサイトからライセンスフリーのプログラムをダウンロードする、決意を新たにゼロからプログラム開発をはじめるといった対応が想定される。何れにしても難儀なことである。特に最近、やの対応をさんざん模索した後で、その結末よりは遙かにより選択肢であったであろう公開プログラムを米国のDOEなどのweb siteに見つけて、「我々のコンピュータ利用環境に未来はあるのだろうか？日本は何をやっているのか」と憤慨したことがあった。皆さんもそのような経験がないだろうか？

熱環境小委員会伝熱WGの有志(クラスライブラリSWG)は、建築伝熱計算に関わる人々のプログラム開発を支援し、さらにはコンピュータ支援設計・教育の推進を願って、建築伝熱計算用のプログラム類などを互いに供出しあい、ライブラリ化する活動を2年半前から開始した。

このような活動が動き出した背景には、有志各位が皆、上に記したのと類似する経験を持ち、ある種の危機感を共有しているためと私は理解している。

プログラム第2部の最初に、クラスライブラリSWGの活動経緯について紹介するが、紆余曲折の末、このたび、ようやくホームページで有志のプログラム類を公開する準備が整った。このシンポジウムの狙いのひとつは、このホームページを紹介することである。さらに、参加者とともに、内外の現状を再確認し、今後このような活動をどのように展開していくのがよいのか討論したい。